

おすすめルート①「古道 下妻道を歩く」

下妻道は、一説には平安時代の「奥州古道」にさかのぼるともいわれる古道です。千住(東京都足立区)から八潮市域を縦貫し、下妻(茨城県下妻市)を通過して奥州(東北)へと向かいます。

江戸時代に日光道中の千住～越谷間が整備されるまでは、この道が江戸から北へ向かう主要道でした。日光道中整備後も脇往還として人馬が行き交っており、大原や八條では人馬継立を行い、宿場町としての賑わいを見せていました。

下妻道の詳しいルートは、裏面の地図に「 」で示しています。

街道沿いに遺された当時の面影を伝える文化財を巡ってみましょう。

スタート バス停「八潮団地」

●● (250m)

清勝院【2・8・14・15・17】

明治42年(1909)に西勝院と清蔵院が合寺。多くの指定文化財を所有する。山門を常時公開。

●● (400m)

太田家住宅・蔵【12】

下妻道と八條渡し場への道の交差点に建っていた河岸問屋。*毎月第3土曜日公開

●● (すぐ)

庚申塔

文化9年(1812)造。「横土手」と呼ばれる土手道に建っていた。両側面に「江戸道」「野道」と刻まれ、道標の役割も果たしていた。



●● (600m)

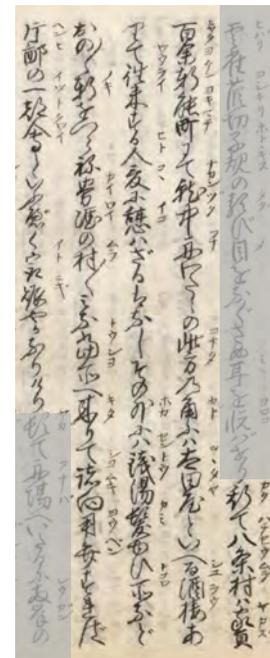


八條村絵図(部分) (個人蔵)

【現代語訳】

この八條村は、家数百軒あまりの良い町で、とりわけ渡船場の角には太田屋という酒樓があつて、行き交う人でここで休息しない人はいない。そのほかには、銭湯や髪結所などがそれぞれ軒をつらね、付近の村々の人々は、みなここへ来て様々な用事をすませているので、片田舎の一都会とでもいうほど大変賑やかである。

国立公文書館デジタルアーカイブ



文政六年(一八二三)ごろに八條を訪れた江戸の僧・津田大浄は著書『遊歴雜記』に市指定文化財である「太田家住宅・蔵」とその周辺の賑わいを記しています。

円空作木造千手観音立像(大経寺)【3】

秘仏で6年に一度、ご開帳を予定。

●● (400m)

和井田家住宅【1・32】

名主家の主屋と長屋門。江戸時代の屋敷構えを遺す。*毎月第3土曜日公開(1・8・12月を除く)



●● (850m)

八條殿社古墳【30】

古墳の上に八條領総鎮守と伝わる八條殿社のお社が建っていた。

●● (450m)

ゴール 八條八幡神社【22・35】

八條村の鎮守。宝徳元年(1449)に八幡・久伊豆・氷川を合わせ祀り鎮座する。八條殿社をはじめ、地区内の多くの神社を合祀する。

*ルートは裏面の●●●を参考にしてください。